

平成30年度・令和元年度

新発田市中学校 防災教育事業



実践事例集



避難所生活ワークショップ



地震体験（長岡・そなえ館）



煙の中の避難体験

目 次

1. はじめに	1
2. 本事業の目指す姿	2
3. 学校別実践事例・自校化プラン・年間活動計画	3
本丸中学校	5
第一中学校	11
加治川中学校	19
佐々木中学校	59
七葉中学校	67
東中学校	99
川東中学校	113
猿橋中学校	123
紫雲寺中学校	129
豊浦中学校	137

1.はじめに

本事例集は、平成30年度と令和元年度に新発田市内全10中学校が実施した特色ある防災教育事業の概要をまとめたものです。

新発田市が目指す教育の基本目標である「子どもが輝く新発田市の教育」の実現に向けて、まちづくり・人づくりの基本理念である「道学共創」の精神も念頭に、生徒に地域課題を自己課題として捉えることを促し、「災害から生き抜く力」「救われる人から救う人への実現」「未来を切り拓く力」「郷土愛」を育むことを目的に実施しました。

冊子には以下の資料が掲載されています。

- 事業の目指す姿
- 実践事例
- 自校化プラン
- 年間活動計画

各学校においては、この資料集を参考にしながら、自校の活動計画を見直し、学校の特性に応じた防災教育カリキュラムを充実・定着・継続することが求められます。今後も、防災教育を推進することで、未来を担う新発田の子どもたちを育むことを期待いたします。

令和2年3月 新発田市教育委員会

〈実施校〉

【平成30年度】

【令和元年度】

学校名	学年・人数 (児童・引率)	実施日	学校名	学年・人数 (児童・引率)	実施日
本丸中学校	全校 467 人	5 月 17 日	東中学校①	全校 192 人	6 月 7 日
第一中学校	全校 383 人	9 月 19 日	東中学校②	全校 192 人	11 月 15 日
加治川中学校	全校 129 人	9 月 26 日	川東中学校	全校 95 人	10 月 30 日
佐々木中学校	全校 67 人	10 月 26 日	猿橋中学校	全校 592 人	11 月 8 日
七葉中学校	全校 141 人	11 月 5 日	紫雲寺中学校	全校 192 人	11 月 13 日
			豊浦中学校	全校 131 人	11 月 22 日

2. 本事業の目指す姿

「道学共創の精神」 「未来を切り拓く力」 を育む防災教育の展開

～人とかかわり、地域に学ぶ活動から～

新発田市として
取り組む防災教育

国の防災教育の方針
防災・安全教育の充実

新潟県の防災教育の方針
安全・安心な環境づくりと防災教育等の推進

地域・家庭
学校とかかわり、思い・願いに共感する
地域・家庭教育の重要性を再認識

共に学び合う機会から、「家庭・地域と
ともに歩む学校づくり」への理解と生涯
学習社会の必要性

⇒家庭・地域の教育力の再生

家庭や地域
との連携・協働

・子どもも大人も、共に学び、かかわる。
・各校の学びを共有する。
⇒小・中・地域連携による教育機会の創造

家庭や地域
との連携・協働

小学校 あかたにの家を活用した防災キャンプ
人とかかわり、地域に学ぶ・郷土愛を深める防災教育

学びをつなぐ・生かす体験機会から「自分の命を自分で守る」
「人と助け合い、協力する」
その大切さを実感させ、実生活に生かす。

⇒郷土愛・主体性・道徳心を伸ばす・深める教育

災害発生時や
避難所体験、
将来を見据えた体験

郷土愛 自然と共生する心構え
主体性 危険回避能力 思考・判断力
道徳心 いのちの尊さ 協力する心 思いやる心

地域の魅力・教育
資源をあかたにの家
のプログラム化

あかたにの家の活用・
交流人口増加

中学校

地域課題を自己課題として捉え、
地域と共に解決・改善を目指す未来を切り拓く防災教育

小学校で学んだ知識・体験を生かして、
「救われる人」から「救う人」への実現へ！
⇒安心・安全な新発田の未来を
考え、創る教育の実践

中学校区での
学校間の連携

深い郷土愛の醸成
社会を生き抜く・
未来を切り拓く力の育成

創造力・表現力・
実践力
コミュニケーション能力
規範意識
思考・判断力
主体性・郷土愛
道徳心・貢献心
自己有用感



赤谷地域

地域外の人とかかわる喜びを
実感し、地域主体で自地域を
幸せにする活性化策を検討

3. 学校別実践事例・ 自校化プラン・ 年間活動計画

<新発田市立本丸中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>1 学校：立地特性は、比較的安全である。 2 生徒：生徒数は約 500 名。 3 地域：近傍に 2 つの小学校がある。災害時には避難所となる。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>災害時、以下の事項が学校に期待される。 1 生徒の安全確保が最優先 2 生徒に対する防災教育 3 避難所としての円滑な運営</p>
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<p>災害時に、以下の行動がとれる。 1 発災時、最小限の自己の安全を確保できる 2 規律ある集団行動による避難ができる</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>1 防災講座の実施：5月17日、1時間実施（NPO 法人ふるさと未来創造堂を招聘） 2 第1回避難訓練：5月17日、火災発生を想定 3 第2回避難訓練：12月3日、地震発生を想定、緊急地震速報に連携した安全確保行動と避難行動</p>
<p>自校プランの内容</p>	<p>1 外部講師による「防災教育」の実施 2 年間2回の避難訓練の実施 3 新潟県防災教育プログラムの実施</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>1 新潟県防災教育プログラムを教育計画に反映できるかを検討し、可能なものから計画的に実施 2 外部講師を開拓するとともに、招聘するための予算を確保</p>

新発田市立本丸中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		<div data-bbox="422 1783 1294 1856" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回避難訓練（火災・消防と連携） </div>	<div data-bbox="422 1682 1294 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 防災教育（火災・地震） </div>						<div data-bbox="422 696 1294 770" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回避難訓練（地震） </div>			
第2学年												
第3学年												

実践報告書

(1) 事業名	防災講座の受講
---------	---------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<ol style="list-style-type: none"> 1 火災発生時の行動について、話し合い活動を通じて学んだ。 2 生徒は講師の教育に関心をもって臨んだ。 3 話し合い活動も積極的に取り組むことができた。
成果と今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 成果 : 話し合い活動を通じて、火災発生時のとるべき行動を理解することができて、非常に成果があった。 2 今後の課題 : 継続的に部外講師を招聘できる予算の確保

実践の様子



講師による火災の教育



話し合い活動



ポータブルアンプを使用して発表



話し合い活動の発表

新発田市立本丸中学校 全校防災講座計画案

日 時：平成 30 年 5 月 17 日（木） 14：20～15：05（45 分間）

会 場：体育館 対象：全校生徒 約 500 名

ねらい ・自分の命を守る行動（避難訓練）について振り返り、防災意識を高める。
・火災の出火原因や死傷者について知り、火災予防や被害を最小限に抑えるために、中学生としてできることを考える

活動の流れ（案）： ※教室で話し合い活動を行うグループ（4、5 名程度）での活動を想定

0. 避難訓練終了後、クラスごとに整列をし直す。A3 ワークシートとプロッキーを配布する

※学校側で対応願います。A3 ワークシートは 2 枚、プロッキーは各グループ 1 本 (5 分)

1. 建物火災の写真資料、年間の火災発生件数や年齢別の死傷者数等の資料を提示し、火災で亡くなる人は「高齢者が多いこと」、その原因は「煙による一酸化炭素中毒」及び「煙による逃げ遅れであることを知る。」 (5 分)

2. 火災に関する映像（出火原因・早期発見後に初期消火をした事例）を見る。 (8 分)

3. 火災の発生件数と出火原因に関する資料を提示して、「火災予防策や火災の被害を最小限にするために自分たちにできること」をグループで考えさせる。 (20 分)

1) 火災から家族を守る、予防策と被害の軽減策

2) 火災から地域を守る、予防策と被害の軽減策

※予防・軽減策を話し合わせ、A3 ワークシートに書かせる。最も大切だと思うものを 1 つ選ぶ。

4. グループで考えたことを数グループ（各学年 2 グループ程度）から発表させる。

発表内容について講評を行い、まとめる。 (7 分)

準備品について：

本丸中学校 ・A3 ワークシート（2 種類）及びプロッキー（サインペン）1 本×グループ数分
※A3 ワークシートの記載例はプロジェクターに投影しておくので、配布は不要です。

・振り返り用ワークシート（A4）×生徒数分 ※教室で記入

・プロジェクター、スクリーン、ワイヤレスマイク×2、延長コード×1

・パソコン置き用の机 ※ パソコンは講師が持ち込みます。

未来創造堂 ・A3 ワークシートデータ、振り返り用ワークシートデータ、パソコン、
講座用スライド、火災の映像資料、パソコン用スピーカー

以上になります。当日は 13 時 30 分にお伺いします。修正のご要望やご不明な点等ございましたら、ご連絡下さい。

NPO 法人ふるさと未来創造堂 中野

活動の流れ (14:20~15:05)

- ・新潟県内の火災について (13分)
火災発生件数や原因、死者数 等
- ・グループワーク (20分)
テーマは2つ グループを作って話し合う
- ・話し合ったことを数グループから発表 (7分)

引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

○放火自殺等を除く死者は31人

そのうち、65歳以上が21人で最も多い。

67.7%

身体が不自由・寝たきり・認知症の方も・・・

引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

- ・火災の煙は、多くの場合、様々な有毒物質を含んでいる。その中で、最も発生量が多いのが「一酸化炭素」
- ・焼死者の大半は火傷で死亡したのではなく、煙を吸って意識不明になり、炎におそわれた人が多い。
- ・一酸化炭素自体は、無色・無臭 → サイレントキラー



空気中のCO濃度 (%)	症状
0.02	2~3時間で軽い頭痛がする
0.04	1~2時間で頭痛、吐き気がする
0.08	45分でめまい、けいれんを起こす
0.16	20分で頭痛、めまい、2時間で死
0.32	5~10分で頭痛、30分で死
0.64	5~15分で死
1.28	1~3分で死

引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

平成28年1月~12月 県内の火災発生件数

- 出火件数 573件
- うち、建物火災 394件

火災で亡くなった人の人数は？

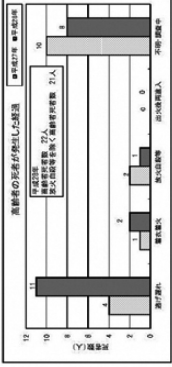
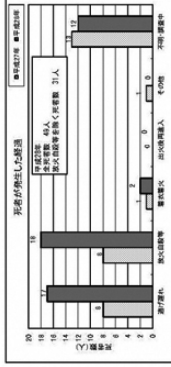
引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

○亡くなった原因は？

「逃げ遅れ」が17人
放火自殺等を除く死者31人の54.8%

「逃げ遅れ」が11人
放火自殺等を除く死者21人の52.4%

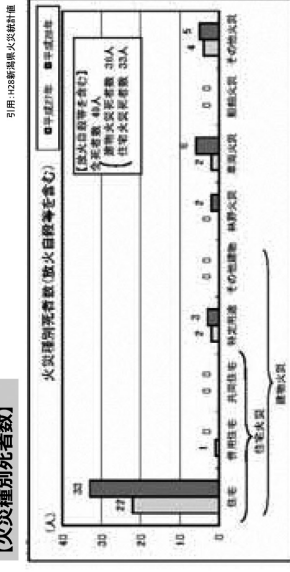
引用: H28新潟県火災統計



引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

- 火災による死者数は49人 (うち65歳以上の高齢者は22人)
- 放火自殺等を除く死者は31人 (高齢者は21人)

【火災種別死者数】



引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

煙

煙から命を守る (その1)
ぬれタオルで口と鼻を覆う

- 口とタオルの間を少し膨らませる
- 呼吸がしやすい。
- 熱気を冷やす効果がある
- ハンカチ・ネクタイ・衣類でも役に立つ→

引用: 市民防災研究所編纂「家」備える防火講座」より

引用: H28新潟県火災統計
NPO法人 ふるさと未来創造堂

煙から命を守る (その2)

壁際や低い場所には、空気が残っている
階段は、
はうように足から降りる。
階段のコーナーに
空気が残っている

廊下は低い姿勢で、壁伝いに歩く。肘をつけて床をなめるような姿勢で進む。
床すれすれのところ
には煙は来にくい

ふるさと未来創造堂

平成28年1月～12月の火災発生件数

○ 出火件数 573件
○ うち、建物火災 394件
平成27年1月～12月の火災発生件数
○ 出火件数 578件
○ うち、建物火災 373件

建物火災件数は、21件も増加している。
減らすことはできないのだろうか？

ふるさと未来創造堂

グループワーク 自分と家族、地域を火災から守る
「火災予防や被害を最小限にするために
私たちにできること」

＜話し合うテーマ＞

- 火災から、
1. 家族を守る“予防策”と“軽減策”（被害を最小限にする方法）
 2. 地域を守る“予防策”と“軽減策”

火災のときに命を落とす人、その原因、火災の発生原因等、今日の話振り返りながら、考えましよう。

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：大阪府HP

濃煙内の避難は非常に難しい・・・。

出典：千葉県消防HP

NPO法人
ふるさと未来創造堂

建物火災件数は、21件増加している。

消防署も地域の消防団も色々な活動を実施している。

火災を発生させないために・・・
火災が発生したとき、
被害を最小限に抑えるために・・・

中学生にできることは？

ふるさと未来創造堂

1. 火災から「家族」を守るために
中学生としてできることは？

予防策

★ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○

軽減策

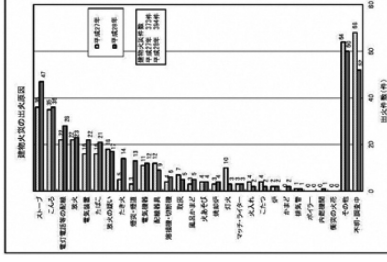
・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
★ ○○○○○○○○○○○○○○○○○
・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○

NPO法人
ふるさと未来創造堂

出火原因は？

- 394件の建物火災の内、
- ・「ストーブ」47件
 - ・「こんろ」36件
 - ・「電灯電話等の配線」28件
 - ・「放火」放火の疑い40件

一度発生してしまつたら、被害は起こる。日頃からの予防することで減らすことはできないか。



引用：川内消防署火災統計値 ふるさと未来創造堂

グループワーク 自分と家族、地域を火災から守る
「火災予防や火災の被害を最小限にするために私たちにできること」

【使うもの】 ワークシート2枚、サインペン

＜進め方＞

1. 各車で、中学生としてできることを話し合い、ワークシートに書く。
2. 最も優先してやるべきこと（もの）を1つ選ぶ。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク 自分と家族、地域を火災から守る
「火災予防や被害を最小限にするために、私たちにできること」

14時58分まで

【使うもの】 ワークシート2枚、サインペン

＜進め方＞

- ・中学生としてできることを考えて、ワークシートに書く。
- ・最も優先してやるべきことを1つ選ぶ。

＜話し合うテーマ＞

- 火災から、
1. 家族を守る“予防策”と“軽減策”
 2. 地域を守る“予防策”と“軽減策”

ふるさと未来創造堂

<新発田市立第一中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>当校の学区の大部分は、蒲原平野の沖積層上にある。沖積層上にある住宅地、道路などは、地震の際地盤沈下や地下水の噴出などの二次災害が予想される。そのため、国道7号線をはじめ、県道、市道などが寸断され、ライフラインも壊滅状態になる恐れがある</p> <p>学校の北東部に位置する加治川が集中豪雨で決壊し溢水し、東新町及び豊町の浸水等の被害が発生する恐れがある。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>学区は市内中心部に近い場所に位置している。保護者世帯では共働きで日中は不在にしている家庭も多い。</p> <p>地域内には高齢者も多く、そのため日中の学区内には災害時、要支援者も多く、災害発生時の状況によっては中学生にも率先して避難時の要支援者のサポートなどを行う活躍が期待される。</p>
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合、自身や周りの安全に配慮しながら的確な避難行動ができる生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に外部講師を招いて、大雨、洪水についての防災教育講演会を実施 ・6月と12月に避難訓練実施後、下記の内容で防災についての授業を実施 <ul style="list-style-type: none"> 1年生（6月）屋内（学校、自宅等）で地震が起きたときの対処法 1年生（12月）雪の災害、降雪時に地震が起きたときの対処法 2年生（6月）降雨時、カミナリ、大雨の対処法 2年生（12月）土砂災害の種類が発生を予想と対処法 3年生（6月）地震直後の津波に対する対処法 3年生（12月）災害時の情報の集め方、連絡の仕方
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての「防災教育」の実施 ・年間2回の避難訓練の実施 ・自校の防災教育プログラムの実施 ・地域の防災訓練への積極的な参加促進
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムを参考にして、防災教育の自校化に取り組み、総合的な時間、特別活動、原子力災害の分野では一部理科の教科とも連携し、教育活動全体において防災教育の内容を体系的に位置づけていく ・避難訓練後、防災授業を防災計画や年間行事予定に位置づける。 ・地域コーディネーターと連携し、外部講師や自治会長等と連携を密にして、防災教育に参加、助言をいただく

新発田市立第一中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	災害時に校舎から避難する、避難経路の確認											
第2学年	地震を想定した第一回避難訓練											
第3学年	第一回防災学習 各学年ごとに、個別の災害の対応の仕方について											
	防災講演会 大雨、洪水から安全に避難する											
	火災を想定した第二回避難訓練											
	第二回防災学習 各学年ごとに、個別の災害の対応の仕方について											

実践報告書

(1) 事業名	防災講演会 大雨、洪水から安全に避難する
---------	----------------------

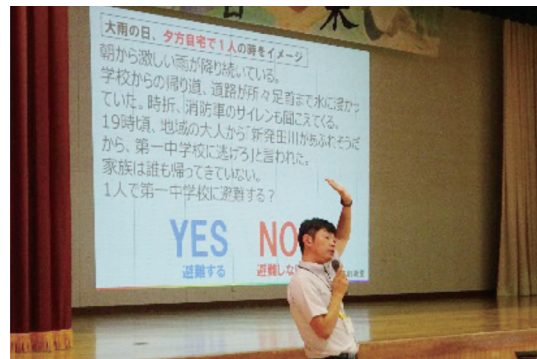
(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<p>防災の外部講師を招いて身近な地域の水害の危険性について話を聞き、過去の新潟県の水害災害を知るとともに、災害を身近な事としてとらえることが出来た。</p> <p>その後の講師による「災害時取るべき行動について学ぶ」では、災害時の事例をもとに、具体的な取るべき行動について、いくつかの選択肢を提示して考えさせた、生徒は各学級の小グループごとに集まって、実際の水害災害に出会ったときに、どうしたら安全に身を守れるかを話し合った。</p> <p>班ごとに、意見を出し合い、その結果を受けて講師の防災アドバイザーから具体的な事例を挙げながら災害時の安全な避難について学ぶことが出来た。</p>
成果と今後の課題	<p>普段はあまり気につけない近くの河川も、実は災害防災マップで大雨の時は危険な場所であるという事に気付くことが出来た。</p> <p>また、具体的な避難時の課題を考えさせることにより、お互いが協力し助け合い支え合うことの大切さにも気付いた有意義な講演会だった。</p>

実践の様子



県内の水害事例



水害の想定で浸水した場合の行動を考える



班ごとに話し合い



新発田市立第一中学校 全校防災講座案

日時：平成 30 年 9 月 19 日（水）14：30～15：20 場所：体育館

ねらい：過去の洪水災害を振り返り、災害発生時の対処行動や自分たちにできることを考える。

持ち物：ワークシート 1 人 1 枚、筆記用具

講座内容 ※県防災教育プログラム必須-7

1) 写真や資料などを使用し、洪水災害発生時の地域の状況をイメージさせる。(10 分)

- ・過去の災害（7.13 水害や 23 年新潟・福島豪雨災害を主に）の被害状況を知る。
- ・洪水災害からの避難情報と避難方法を知る。
「洪水災害時に避難する」という言葉を聞いた時、あなたはどのような行動をイメージしますか？
→ 屋外や避難所に逃げるだけでなく、洪水災害からの避難は状況に応じて異なることを押さえる。

2) 対処行動をクイズ形式で考えさせる。(30 分)

- ・具体的な状況下での災害発生を想定し「その時、どのように行動するか？」を Yes、No の 2 択で選択する設問内容を実施。
選択した判断及び理由をワークシートに記入させ、近くの生徒 4 名程度と共有する。
- ・設問は 2 問 答えに絶対的な正解はない。2 択の選択には一長一短な点があることを伝え、その時の最善だと思う行動と理由を考えさせる。
- ・内容は、学校外における災害発生時及び災害発生後の行動について出題する。
- ・解説で、地域の状況や過去の災害事例を交えて解説する。

設問 1 このクイズのやり方を知るために簡単な例題を出し、練習します。

設問 2 朝から激しい雨が降り続けている。夕方、学校からの帰り道、道路が所々足首くらいまで水に浸かっていた。今は自宅に一人。時折、消防車のサイレンが聞こえてくる。
雨は更に激しく降り続いていて、19 時頃、地域の大人から「新発田川が溢れそうだから、第一中学校に逃げろ」と言われた。家族は誰も帰ってきていない。1 人で第一中学校に避難する。
YES/避難する NO/避難しない

3) まとめ・振り返り (10 分)

- ・講座を振り返り、自然災害から生き抜くために大切なことを伝える。
→洪水災害は事前に予測ができる。早めの避難が重要。早めの行動を起こすために日頃から準備しておくことと家族で調べ、相談しておく大切さを伝える。
(避難のタイミングや避難場所を数か所決める、ハザードマップを事前に確認、家庭の備え、連絡手段等)
- ・代表者から、今日学んだことの感想や気づきを発表。

準備品

- ・プロジェクター ・スクリーン ・HDMI ケーブル ・マイク
- ・ワークシート×人数（事前に配布し、筆記用具と一緒に当日各自持参）

※PC は持ち込みます。

以上

洪水災害から自分の命を守る



NPO法人
ふるさと未来創造堂 常務理事 中野 雅嗣

発令する避難情報の種類（洪水を例に）

- 1. 避難準備・高齢者等避難開始**
 - 通常の避難行動が出来る方は、気象情報に注意し、危険だと思ったら早めに避難する。
 - 災害時要支援者（高齢者世帯・障がい者・病人や妊婦・5歳未満の乳幼児がいる世帯・外国人など）、避難に時間がかかる方は避難を開始する。
- 2. 避難勧告**
 - 全員が避難を開始する。
- 3. 避難指示（緊急）**
 - まだ避難していない場合は、直ちに避難を開始
 - 浸水の中の避難は大変危険
 - 外へ避難できない時は安全な建物の2階以上に避難するなど、生命を守る最低限の行動をとってください。

でも、川の側にある家は・・・

見附市内、刈谷田川越水
NPO法人
ふるさと未来創造堂

今日の講座の流れ

- ・過去の洪水災害と身の守り方について
映像 平成16年7.13水害（三条市）の様子
洪水災害からの身の守り方
- ・災害発生を想定したグループワーク
4人一組で、その時どう行動するか話し合う

NPO法人
ふるさと未来創造堂

「洪水災害から避難する」という言葉を聞いたとき、あなたはどのような行動をイメージしますか？

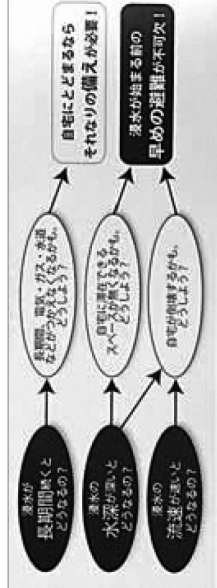
NPO法人
ふるさと未来創造堂

水に浸かってしまった後からの屋外避難は、大変危険！



ふるさと未来創造堂

“避難行動”は、あなたが住んでいる場所やその時、あなたがいる場所によっても違います。



引用：見附市避難対策強化プロジェクト

自分が生活をしている場所が“どうなるのかを知っておくこと”が大切！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

洪水災害が発生するかも・・・
危ないかもしれない・・・

その時、どのように行動する？

NPO法人
ふるさと未来創造堂



ふるさと未来創造堂

平成29年九州北部豪雨・平成30年西日本豪雨

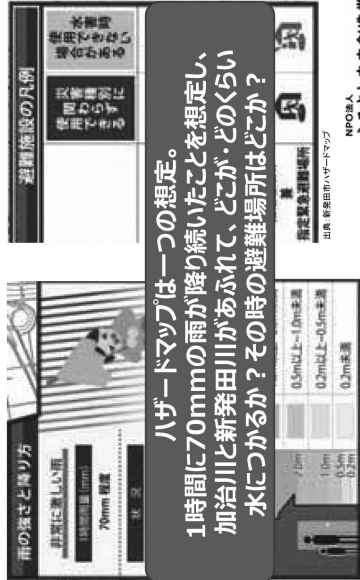
NPO法人
ふるさと未来創造堂

＜進め方＞

- ◆ 災害＝想定外 → その時々で様々な判断が必要
- ◆ その判断や考え方をみんなで共有し、参考にするのがクロスロードゲーム
- ① 災害時、判断しなければならぬ状況を伝える。
- ② その時、どうするかを個人で考える。「YES」か「NO」で判断し、ワークシートに自分の判断(YESかNOか)と選んだ理由を書く。
- ③ グループで自分の判断を伝える合う。
YES・NOの人数をワークシートに書く。
- ④ グループ内で、判断した理由を1人ずつ発表
- ⑤ 発表を聞きながら、他の人の判断・意見もワークシートに書く。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

新発田市ハザードマップからわかる、洪水災害のこと



ふるさと未来創造堂

亡くなった人の約8割が逃げ遅れ・・・

今までこんなことなかった・・・

自分は大丈夫だと思った・・・

ハザードマップでは大丈夫だった・・・

避難情報が出た時にはもう逃げられなかった。



ふるさと未来創造堂



100年に1回、発生する確率の大雨を想定。
近年は、200年に1回の確率の記録的な大雨が降り、
洪水災害が起こっている。。。

ふるさと未来創造堂

大槌湾の死者・行方不明者
居住地分布



想定にとらわれるな！
最善をつくせ！



ふるさと未来創造堂

洪水災害から身を守る！

「自分も家族も、全員が助かるために、
今日から準備しておくことは？」

NPO法人
ふるさと未来創造堂

今日からやろう。みんなに出来る大切な事

自分の命を守り、家族や友人を救うために、

- ・自分の命を守るために、最善をつくす覚悟！
- ・自地域を下調べする。
- ・家族や友人、大切な人等と事前に話し合う。
- ・バラバラの時の行動や避難場所（複数）も決めておく。
- ・決めた約束は、全員が絶対を守る。

“あなた”が自分の命を守るために、
“最善を尽くす”こと。

それが家族や友人、知人の命を守ることになる！
ふるさと未来創造堂

<新発田市立加治川中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加治川地域は紫雲寺潟を干拓してできた平場の新田地帯と、縄文時代から古い歴史をもつ山手地帯に分けられている。紫雲寺潟は5・6月頃の降雨期になると加治川・今泉川の氾濫、胎内川の逆流により大洪水を引き起こし、農作物に大きな被害を与えてきた。ハザードマップによれば、豪雨時（時間雨量70mm程度）外水浸水想定では2.0m～5.0mの地区もあり、外水氾濫や土砂災害による被害が想定される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合、安全に配慮しながら適切に行動してほしい。 ・避難時には、地域の防災に主体的に協力・貢献してほしい。 ・加治川氾濫から50年過ぎ、当時の状況を語り継ぎ、緊急時に備えていかななくてはならない。避難場所に不安を抱いている地域の方もいる。 ・日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、進んで活動できる生徒を育成する。
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守るという姿勢を身に付けており、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するために行動ができる。 ・自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害と防災についての基本的事項が理解できる。 ・人間としての在り方・生き方を考え、生命尊重の心を持ち、人々や集団、地域の安心・安全に対して、進んで役立つことができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（地震を想定した訓練） ・防災教室（地震時の避難所における中学生の役割を考える） ・新潟県防災教育プログラム（1年：洪水・地震・土砂災害 2年：津波・地震・雪災害 3年：地震・原子力災害） ・防災教室（ハザードマップや「あの日から50年～羽越水害の記録～」を資料もとに水害時を想定した避難を考える。
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての「防災教育」の実施 ・年間2回の避難訓練 ・新潟県防災プログラムの実施 ・学区のハザードマップを活用し、避難をテーマにした学習
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災教室を防災計画や年間行事計画に位置付ける。 ・外部講師や防災関係機関との連携を密にし、参加・助言をいただく。 ・新潟県防災教育プログラムを教育計画「防災教育」に位置付け、計画的に実施する。

新発田市立加治川中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			第1回 避難訓練			第2回 避難訓練	防災教育講演会 地震		地震や津波の仕組み 理科			
第2学年		応急手当		救急救命講習会						自然災害の傷害と防止 保健体育		
第3学年								原子力災害 理科			気象災害 理科	
											自然の恵みと防災 理科	自然災害と防災 社会

実践報告書

(1) 事業名	加治川中学校防災教育プラン ①避難訓練（地震）・避難所でできること ②水害から身を守る
---------	---

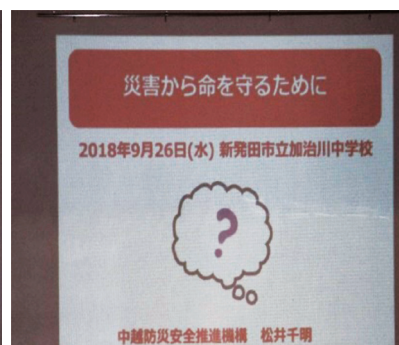
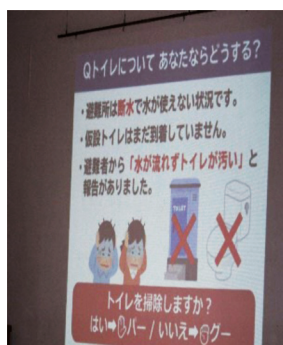
(2) 実践報告

実践内容及び 児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における避難訓練に対し、生徒は真剣に取り組み、避難時の注意すべき点についての理解も十分できている。しかし、誰かの指示を待ち、指示に従って避難している訓練では、校外での被災時に的確に判断し行動できるかは分からない。中越防災安全機構職員からの講話は、中越地震や熊本地震の事例を基に、避難所での生活に焦点をあて、映像により実感を伴った講話であった。避難所での生活、そこでの注意すべき点、中学生でもできることなどについて具体的に考えた。 ・地域の一級河川加治川の氾濫による羽越水害から50年が過ぎ、水害や土砂崩れへの意識は薄れている。ましてや、中学生は水害の怖さを理解する機会がなかった。この度、新発田市振興局地域整備部計画調整課から資料「あの日から50年～羽越水害の記録～」及び新発田市ハザードマップを提供してもらい、実際に起こるであろう水害について知り、実際にどう避難するのかについて考える機会となった。
成果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の場面を想定した生きた知識となり、防災意識を高め、災害への心構えを心に刻んだ。 ○災害時には自分でできることは自分でやり（自助）、一人で避難できない人には地域で助け合う（共助）が必要であることを学んだ。 ▲どんな状況においても「自分の身は自分で守る」ため、的確に判断し行動できるための知識と心構えを身に付けさせたい。

実践の様子

上段：避難訓練の様子

下段：防災教育講演会の様子



災害から命を守るために

2018年9月26日(水) 新発田市立加治川中学校



中越防災安全推進機構 松井千明



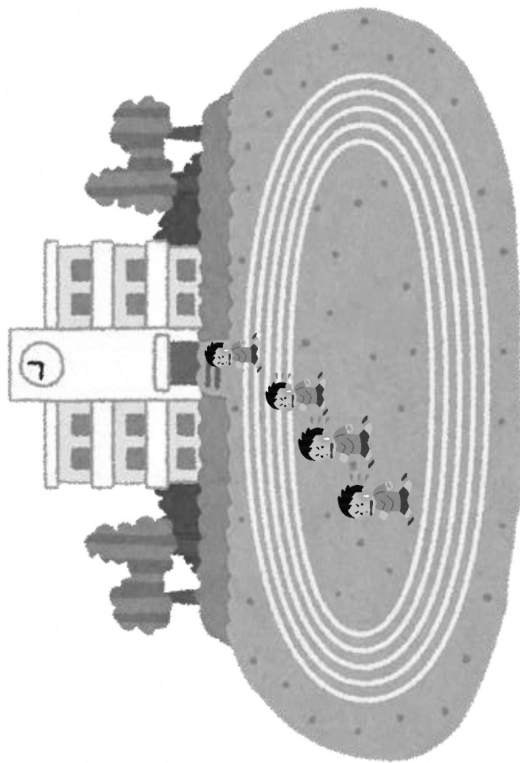
いつもの避難訓練



訓練、訓練



緊急地震速報
地震です



実際は…

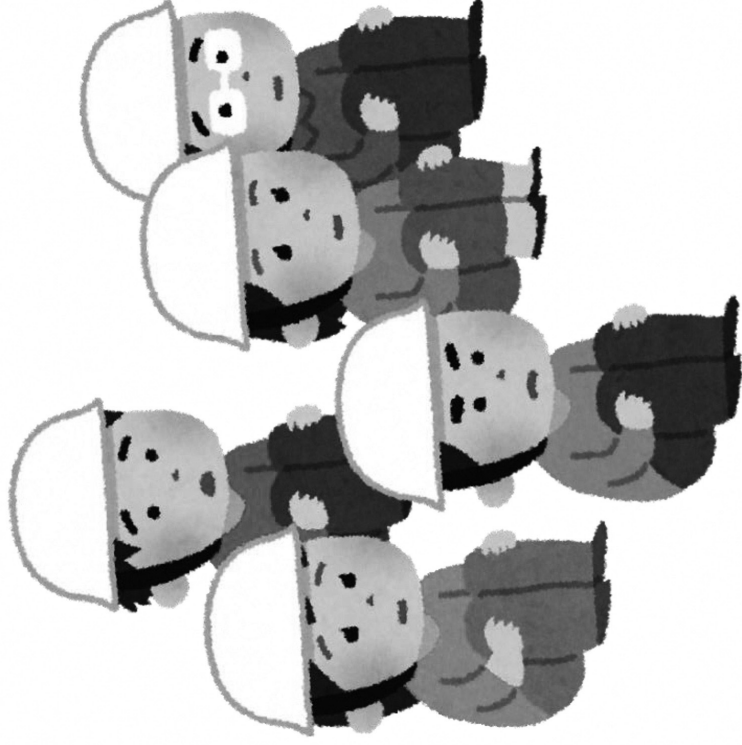


地震はいつでもどこで起きるかわからない
自分で考えて行動することが必要

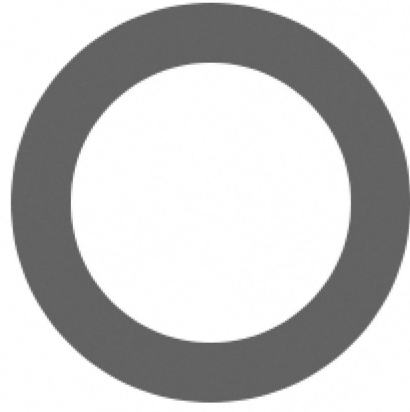


無事に避難できました！

そのあとの避難生活は…？



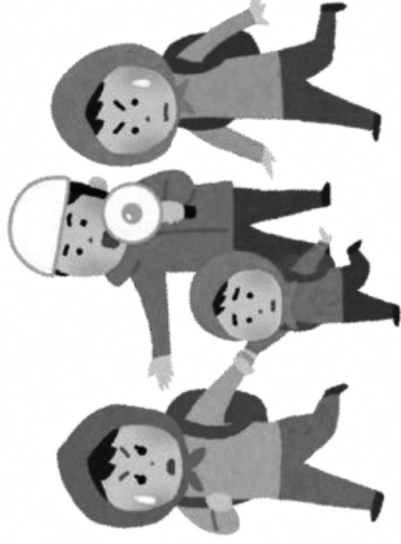
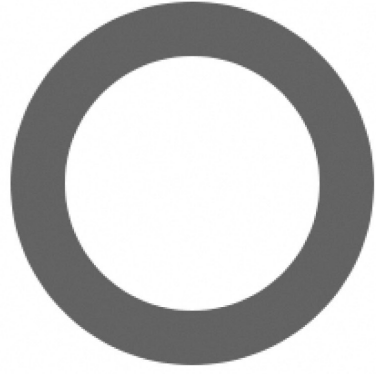
避難所グッズ



どちらかに手を挙げて下さい！

問題

避難所とは、
大きな災害が起きた場合
全ての住民が避難する場所
のことである。



答え



避難所とは、全ての住民が避難する場所ではなく、家の倒壊などで自宅で生活できない人が一時的に生活する場所。加治川中学校も1500人が避難できる施設として避難所に指定されている。

答え×

自宅で生活できる人は避難所に行く必要はない
衣食住の環境・情報・安心感などを
求めて人が集まる



避難所の様子

避難所に入れない



避難所に入れない

体育館内は一杯です。

校舎の1階・2階の

廊下を避難所として

解放してあるので、こちらを

ご利用ください。

廊下で寝泊まりする避難者



人が密集した避難所



車椅子の避難者



乳幼児を抱えた避難者



給水車へ並ぶ列(水の確保に数時間)



実際の避難所

- ◎衣食住が満たされるわけではない
- ◎施設職員・行政職員は手一杯
- ◎いろいろな人が一斉に集まり
いろいろな問題が生まれる

※いろいろな人の例

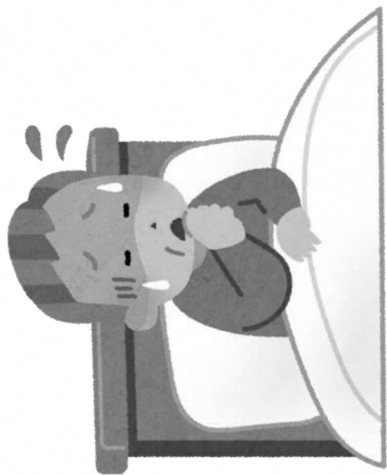
- ・乳幼児・妊婦・心身に障害を抱えた人
- ・外国人・持病のある人・けがをした人
- ・家が全壊した人
- ・家族を亡くした人 など

中越地震の死者 = 68名



関連死

避難中や避難後
に死亡



52名

直接死

家屋倒壊や土砂崩れ等
により死亡

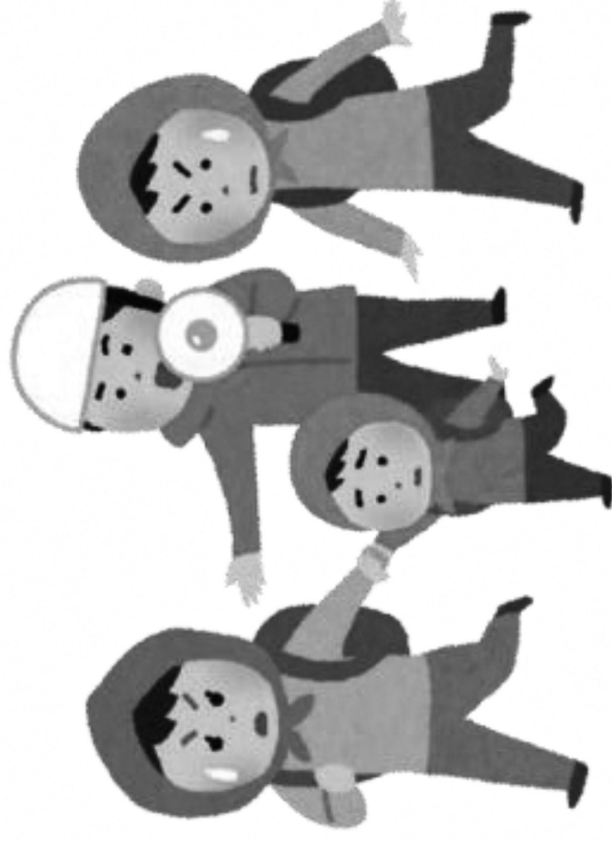


16名

考えてみよう！

避難所生活

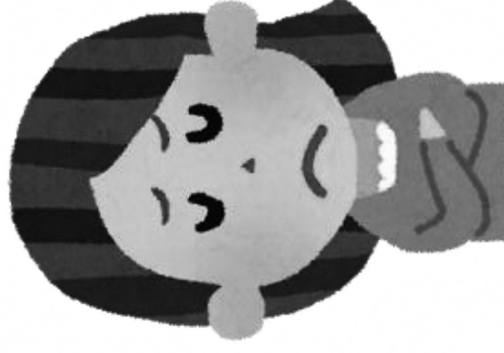
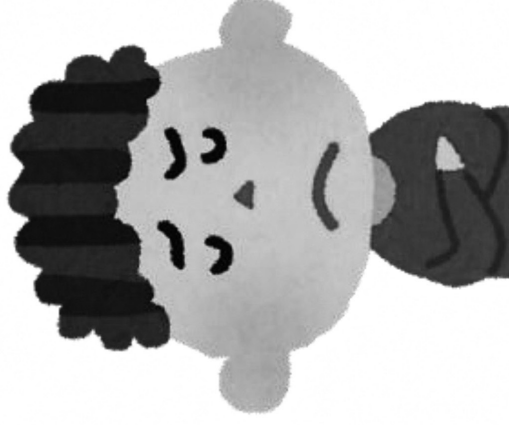
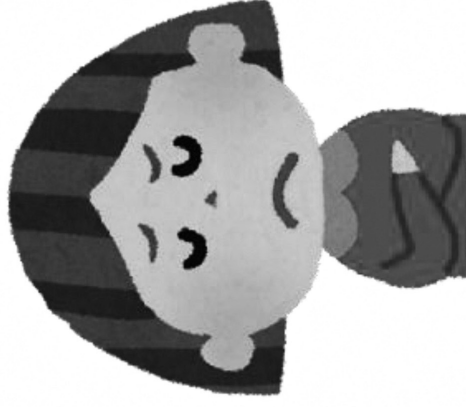
あなたならどうする？



これから正解のない問題を出します
災害が起こった時のことをイメージして
自分だったらどうするか考えてください

「はい」か「いいえ」か…

理由と解決策も考えてください



<状況設定>

9月中旬の日曜昼頃に新発田市で震度7の地震が発生し、学校も一部被災しましたが、避難所を開設することになりました。ライフライン（電気・ガス・水道）はストップしています。近隣の住民が続々と避難してきました。



Q1 食料について あなたならどうする？

お腹が空いたので家から持ってきた食料を
食べようとしたところ、まわりを見渡すと
手ぶらで避難している人たちもいるようだ。



持ってきた食料を食べますか？
はい→👉パー / いいえ→👉グー

問題

新発田市の食料備蓄(主食)は
市民1人あたり
どのくらいあるでしょうか？

- ① 3日分
- ② 1日分
- ③ 1食分もない

新発田市の備蓄について(平成30年6月時点)

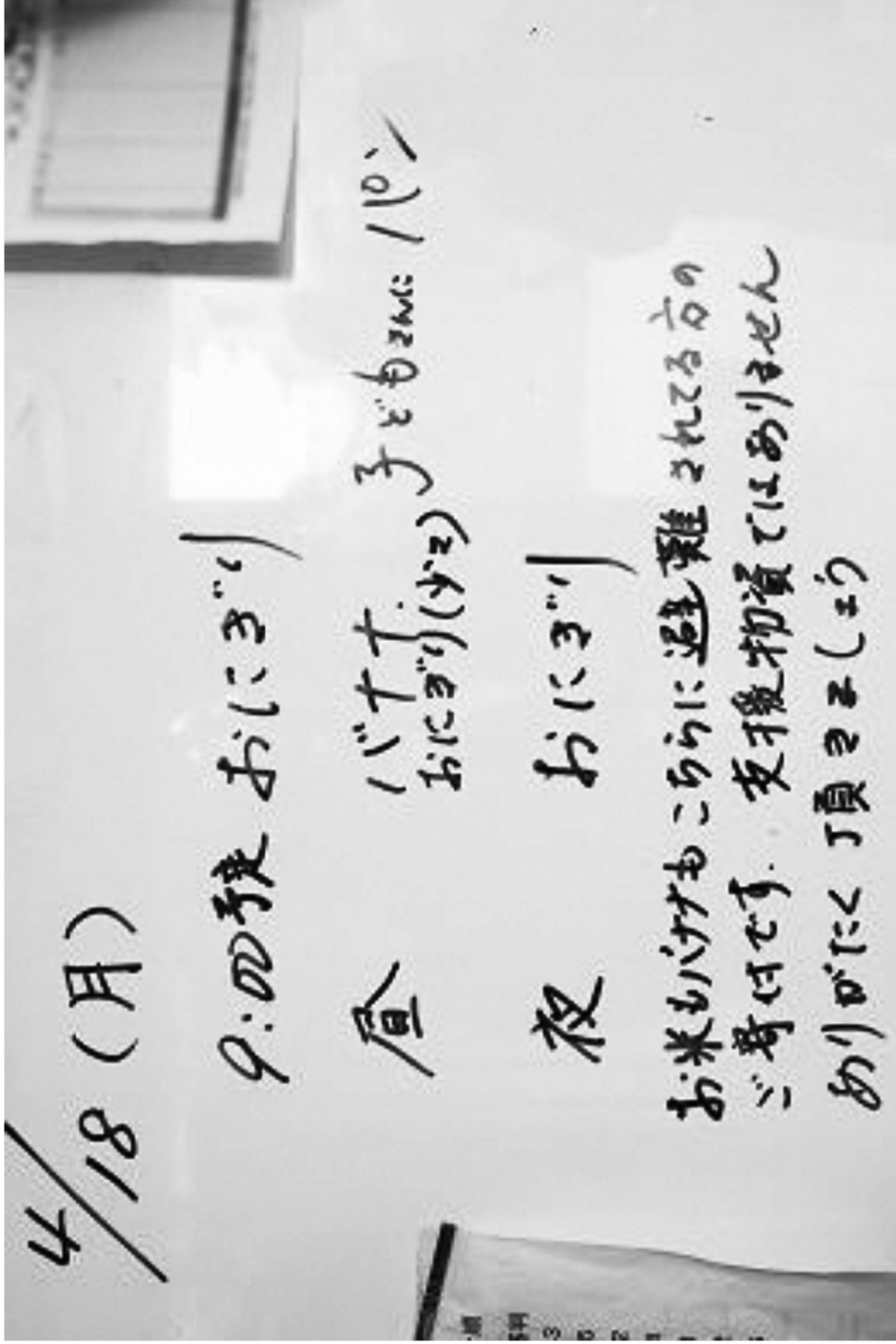
乾パン (缶)	クラッカー (缶)	ご飯 (箱)
50	46	40

新発田市の人口 9,8231人

- ※市で備蓄するにはコストがかかる
- ※イオン・コメリ等と協定を結んでいる
- ▶災害直後は行政の備蓄に頼れない



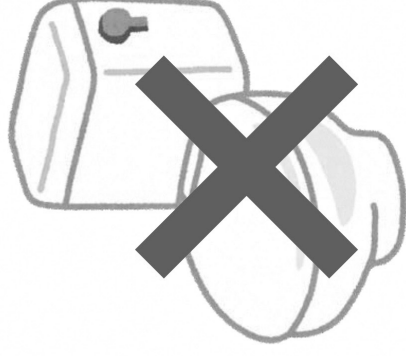
平成28年 熊本地震



**地震発生から4日経っても
公的な支援物資が届かなかった避難所も**

Qトイレについて あなたならどうする？

- ・避難所は断水で水が使えない状況です。
- ・仮設トイレはまだ到着していません。
- ・避難者から「水が流れずトイレが汚い」と報告がありました。



トイレを掃除しますか？
はい → 掃除パー / いいえ → 困グー

Qトイレについて 解決案

- 学校にあるものを活用する
- 報告者へ「一緒に掃除しませんか」と提案する。

**ほかにも中学生には
できることがあります！**

熊本の避難所での小中学生

- ・ 体育館の掃除をしていた
- ・ 食事を配る手伝いをしていた
 - 普段学校でやっていることが
 - 避難している人のためになった！
 - ささいな手伝いでも
 - その姿勢が人を勇気づけていた！

◎ **大人も子どもも関係なく
全員が助け合いの気持ちをもって
支えあうことが大事。**

◎ **助け合うためには、
まず自分の命を守ることが大事。**

中学生が避難所生活の大きな力に

- ・ **大きな災害が起こると
多くの住民が学校を
目指して避難してくる。**
- ・ **先生も避難所の運営に関わるが
中学生の働きは避難所運営の
大きな力になる。**

中学生が避難所生活の大きな力に

なぜなら…

①学校にいる時間が長い

＝学校・地域をよく知っている

例) トイレ・保健室・掃除用具入れの場所

例) 1人暮らしのお年寄りの顔、公衆電話の位置

②体力・知力がある

＝色々なサポートができる

例) 子どもの遊び相手、体操の呼びかけ、レク活動

防災(災害に備える)って？

- ・物のそなえ
水,食料,ラジオ,家具の固定などを準備する
- ・心(姿勢)のそなえ
災害時に困りそうなことを認識し
普段の生活の中で
自分ができることを増やす

防災(災害に備える)って？

★すべての活動が防災につながっている！

- ・人の目を見て話を聞く
 - 避難時の指示を聞きもらさない
- ・授業の最後に感想を書く
 - 物事に対して自分の考えを持ち、行動する
- ・家族・友達・先生と話をする
 - 自分と他人は違う人間だと知る
 - どうしたらいいのが悩む
 - 避難所生活で大切な心構え

<新発田市立佐々木中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>現在の中学3年生が1歳当時の2004年に中越地震が発生した。そのため、在籍する中学生には身近なところで大きな自然災害の被害を受けた実体験がない。東日本大震災からも7年以上を経過し、自然災害の怖さが他人事になっている。</p> <p>他方、地域住民には、羽越水害（昭和42年）や新潟県北部地震（平成7年）で自然災害の怖さを実体験した方も多し。学区には海拔ゼロメートルの地域もあり、住民の防災への意識は高い。地域の自主防災会の取組も活発である。今後は、中生も、自然災害への当事者意識をもつだけでなく、自主防災会の大切な一員としての役割が大きく期待されている。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なところで災害が発生した時に、自分の命を自分で守ることができるたくましさ身に付けてほしい ○身の回りで困っている人や遠方の被災者の心情に心を配ることができ、当事者意識をもって進んで手助けできる優しさや思いやりの心をもってほしい ○社会性（コミュニケーション力）や対応力を高め、地域に貢献できる力を身に付けてほしい。 ○小さな仲間意識ではなく、広い視野と積極的な行動力を培ってほしい
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を自分で守る力を身に付けていく生徒 ・被災地での現実を他人事とせず、自分事として想像できる生徒 ・常に次に何をすべきかを考えられる判断力・思考力を身に付けた生徒 ・積極的に社会や周囲とかかわろうとできる社会性を身に付けた生徒
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> a 新発田南高生による佐々木地域海拔調査の発表会（平成30年2月、31年2月） b 地域住民・自主防災会と共に避難所運営ワークショップ（平成30年7月） c 防災講演会（被災地ボランティアの体験等）（平成30年10月、11月） d 中越地震被災地（長岡、小千谷等）への現地学習（平成30年10月） e 現地学習後の全校生徒による「防災学習」の振り返り（平成30年10月） f 起震車体験（平成30年11月）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講演会の開催（今後、定期的に） ・学区小学校や保育園と連携した避難訓練の実施や安全マップづくり ・地震や水害を想定した地域ハザードマップを使つての避難訓練
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>PTAや同窓会とも連携し、「防災」「減災」「ボランティア」「自治」といった視点からの講話を開催し、生徒が防災意識を維持するように努める。</p> <p>佐々木地区自主防災会と学校とが連携して防災学習を継続・実践し、生徒の学習がより深まるように、防災学習を教育課程に組み入れていく。</p>

新発田市立佐々木中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												

避難訓練① 火災想定

避難所運営（HUG体験）を学ぶ

講演会① 被災地ボランティアに聴く

防災現地学習 三条・長岡・小千谷の被災地を学ぶ
地域防災拠点の長岡宮内中学校の防災施設見学

講演会②（回覧会主催）
消防隊員として、被災地で見たこと、感じたこと

全校生徒で考える「災害時に必要な人、物、事」

避難訓練② 起震車体験

佐々木地域の海拔調査に取り組む高校生に学ぶ

実践報告書

(1) 事業名	新発田市立佐々木中学校
---------	-------------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<p>「防災学習の一環として中越地震や新潟・福島豪雨の被災地に学ぶ」ために、10月下旬に、長岡、小千谷、三条を訪問した。1年生は三条へ、2年生は小千谷へ、3年生は長岡を訪れ、被災後に復興を遂げた地域を見、災害の記憶と教訓を後世に伝える学習館で、語り部の方からの実体験を聴くなど学習を深めた。</p> <p>現地学習が大きな成果につながるように、事前には、NPO 法人ふるさと未来創造堂による「避難所体験 (HUG 体験)」を、事後には、東日本大震災直後に消防隊として現地に入った方の講演を聴き、自然災害が決して他人事ではないという気持ちをもち学習に臨むことができた。聞いたり読んだりする以上に、自ら訪問し、実際に見ることにより、学びを深めることができた。</p>
成果と今後の課題	<p>ふるさと未来創造堂、中越防災安全推進機構、愛・南魚沼みらい塾、中越市民防災安全士会、長岡市立宮内中学校、新発田地域消防本部など多くの防災関連団体・組織の支援や指導を受けて、多様な角度・視点からの講義を受けることができ、生徒の学びが一層深まった。</p> <p>今年度の学習成果が次年度以降につながるように、地域自主防災会や地域住民と共に防災学習を継続できる体制づくりが課題である。</p>

実践の様子



自主防災会と HUG 体験学習



長岡「きおくみらい」で学習



長岡市立宮内中学校の防災施設見学



三条「水防学習館」で学習



小千谷「そなえ館」で学習

佐々木中学校 防災講座計画案

- 1 ねらい
 - ・避難所運営ゲーム HUG（ハグ）の体験を通して、災害時の避難所運営の難しさを知る。
 - ・地域を支える中学生として、これからの自分の目標を考える。
 - ・防災（減災）とは何かを考えるきっかけをつかむ。
- 2 日 時 平成 30 年 7 月 12 日（木） 8：40～10：30（1・2 限）
- 3 場 所 佐々木中学校 ※ 全生徒と一緒に活動できる場所をお願いします。
- 4 講 師 N P O 法人ふるさと未来創造堂 事務局長 中野雅嗣
- 5 参加者 全校生徒 67 名、教職員 13 名、地域住民（自治会長や PTA 等）
※地域の方へのお声かけが難しい場合には流れを調整します。
- 6 内 容
 - ・災害時の避難所の様子を知る。
 - ・避難所運営ゲームを体験し、災害時の避難所で起こることを具体的にイメージする。
 - ・災害発生時や避難生活で地域が中学生に期待していることを知る。
 - ・これから探求していく目標を設定する。
- 7 当日の流れ ※生徒 5、6 名（縦割り）＋地域住民 1 名程度を 1 グループとして、計 12 グループでの活動を想定
※教職員は、1 人あたり 2 グループを担当し、行き来しながら話し合いに加わる。

① 避難所運営ゲーム HUG の体験し、災害時の避難所で起こるコトを具体的にイメージする
8：40 ～ 9：30（50 分）

- 1) 過去の災害時の避難所の様子や課題を写真資料から学ぶ（7 分）
- 2) ゲームの説明（8 分）
- 3) グループで避難所運営ゲーム HUG を体験させる（35 分）

※全体での指示・進行は講師が行います。活動がスムーズに進むよう、グループを見て周り、進行のサポートをお願いします。

<休憩 5 分> ※休憩時間を 5 分に短縮しても良いでしょうか？

② 災害時に自分たちにできるコトを考える 9：35 ～ 10：30（55 分）

- 1) 地域の大人と一緒にグループワーク（40 分）
 - i) 他のグループから HUG で、特に悩んだこと・工夫したことを聞く。（内 5 分）
 - ii) 模造紙またはえんたくんを使って、グループで話し合う。（内 28 分）
 - ・他のグループから聞いた、悩んだこと・工夫を共有する。
 - ・「HUG を体験しての気付き」や「災害発生時の不安」を書き出し、グループ内で共有する。
 - ・共有した気付きや不安を踏まえて、佐々木地区の全ての人が、少しでも安心して避難生活を過ごすために「大切なキーワード」をグループで話し合い、書き出す。
 - iii) 2 グループで、話し合ったこと・大切なキーワードを伝え合う。（内 4 分）
 - iv) 両グループの大人から、災害時に中学生に頼りたい・期待していることを“1 つ”伝えていただく。（内 3 分）
- 2) まとめ（7 分）
 - i) 過去の災害時の様々な地域共助（助け合い）や避難所で活躍をしていた中学生の事例等を紹介し、中学生にできることが沢山あることを伝える。
- 3) 地域を支える中学生として、自分ができるようになりたいコトを考える（8 分）
 - i) 大切なキーワードの実現に向け、自分が探求していく目標を設定し、プリントに書き出す。

9 持ち物・準備品

- ※ HUG のイメージが湧きにくいと思いますので、事前に1セット貸し出します。ご確認ください。
付属の説明書とCDに、ゲームの進め方や仮想の学校図面データが入っています。
必要に応じて、ご活用ください。
- ※ HUG 体験時に使用する消耗品（図面や模造紙等）は学校さんに一式の準備をお願いできますでしょうか？
こちらで準備することも可能ですが、実費分の費用が発生してしまいます。
中央公民館さんにご相談いただけますと幸いです。

生徒	学校	講師
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 (体操着OK) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・スクリーン ・延長コードドラム 1個 ・PC置き用の机 1脚 ・ワイヤレスマイク 2本 ・マジック（プロッキー） ※1人1本 ・仮想校舎図 12班分 体育館、 ・模造紙（半紙）またはえんたくん 12班分 ・振り返り用プリント 生徒数分 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC1台 ・避難所運営ゲーム 「HUG」カード 12班分

以上になります。当日は8時に会場入りし、活動の準備をします。
朝のお忙しい時間に恐縮ですが、1,2名程度の方からお手伝いをお願いいたします。
その他ご不明な点等ございましたらご連絡下さい。よろしく願いいたします。

ふるさと未来創造堂 中野

今日の講座の流れ

- ・災害時の避難所について知る
避難所の実際と課題
- ・避難所運営ゲームの体験
グループに分かれて、避難者を受け入れるゲーム
- ・地域と一緒にグループワーク
佐々木地区の全ての人が、安心して避難生活を
過ごすため大切なことは？ → 2グループでシェア
- ・これからの目標設定

NPO法人
ふるさと未来創造堂

災害時、
私たちが地域の一員として
できることは？

NPO法人ふるさと未来創造堂
常務理事兼事務局長 中野 雅嗣

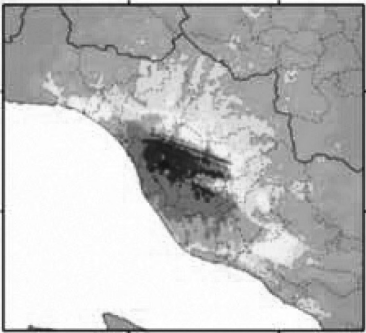
NPO法人
ふるさと未来創造堂



災害時の避難場所を知っていますか？

ふるさと未来創造堂

もしこの地震が発生したら...



新発田市内で
震度7クラスの地震

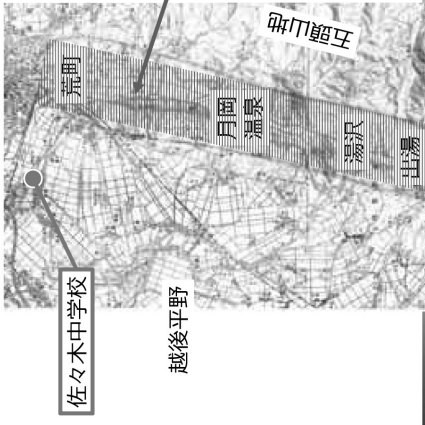
- ・阪神淡路大震災
- ・新潟県中越地震
- ・東日本大震災
- ・熊本地震



引用：地震調査院震害記録データベース
NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所

NPO法人
ふるさと未来創造堂



NPO法人
ふるさと未来創造堂

車中泊

体育館に入れず通路で寝る人々

<p>身体の不自由な高齢者</p>	<p>食事の配給に並ぶ人々</p>	<p>情報の発信</p>
<p>たくさんの物資</p>	<p>避難所とは</p> <p>・不幸な死者を出さないよう、 みなで協力して支え合う場所</p> <p>・生活の再建に向けて、 “心”と“体”の準備をする場所</p>	<p>避難所で起こる様々な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難スペースのかたより ・コミュニケーション不足 ・生きるために最低限必要なものもない ・体調不良者が人、高齢者の対応 ・いびき、せき、騒音、臭い(炊事) ・プライバシーの欠如 ・バラバラな生活スタイル ・トイレの水が流れない ・役割分担の偏り 等々
<p>誰が運営する？</p> <p>情報・物・支援策を持っている人 行政職員</p> <p>+</p> <p>施設(避難所)をよく知っている人 地域の人</p> <p>+</p> <p>中学生にできることは？</p> <p>地域・被災者をよく知っている人 避難者自身 + 協力者(ボランティア等)</p>	<p>HUGの進め方</p> <p>① 全体の進行役が、“避難者カード”と“イベントカード”を読み上げます。</p> <p>② グループのメンバーは読み上げられた内容を聞き、“避難者カード”の場合は、学校の図面を使ってどこに避難させるかを決めて、その場所にカードを置く。“イベントカード”の場合は、どのように対応するかグループで考えて、付箋紙(小)に書く。</p> <p>グループに余裕を与えないよう、次々とカードを読み上げます。 避難者の情報を聞き流さないように！！</p>	<p>災害想定</p> <p>7月14日(土) 震度6強の地震発生</p> <p>現在の時刻は9:00 天気は雨 気温は28度。予報では、最高気温3度</p> <p>・ここは、佐々木中学校(避難所) 【地域の被害状況】</p> <p>倒壊家屋：数件あり。道路：亀裂や陥没あり。 ライフライン(ガス、水道、電気)：使えない。 携帯電話：ほとんどつながらない。 固定電話：3回に1回はつながる。</p>

NPO法人
ふるさと未来創造堂

NPO法人
ふるさと未来創造堂

NPO法人
ふるさと未来創造堂

佐々木中学校（避難所）の状況

避難所の様子

- ・校舎、教室、体育館に大きな被害はない。
- ・トイレの水も出ない。
- ・市の職員はまだ到着していない。
- ・先生は部活顧問が数人。他はグループのメンバーのみ。

災害用で使えるもの

- ・非常用発電機 1台、毛布×5枚、担架×1
- ・仮設トイレなし
- ・運動会テント 2張（3.6×5.4m）
- ・備蓄食料、飲料水とも“無”

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク

- ・グループで避難所運営ゲームHUGを体験した感想やわかったことを話し合います。

模造紙をグループの中央に置いて、囲むように座ります。となりの人との間隔は、なるべく広くとりましょう。

模造紙

- ・フロッピー（1セット ※黄色以外で）

・模造紙 ・筆記用具

NPO法人
ふるさと未来創造堂

地域の考えを聞こう！

生徒が書き出した「大切なキーワード」を見て、地域の大人として、中学生に「特に期待すること」を一つ伝えてください。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

災害想定

避難者の状況

- ・外には100人程度の避難者がいる。続々と避難者は増えている。
- ・高齢者、乳幼児、妊婦、外国人、車椅子の姿も見える。
- ・車で避難してきている人もいる。
- ・グラウンドに大きな亀裂がある。早く屋内に避難させる必要がある。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク

話し合い①

- ①えんたくんの中央は空ける。大人も生徒もグループ全員で、HUGを体験して、1) 気付いたこと、2) 災害発生時の不安(理由も)を書き出す。

- ②グループ内で発表し合う。新しい気付きがあれば書き足して、発表。

模造紙には最初に書き出した意見だけでなく、その後の付け足しも書き込みます。(ノートと一緒に)

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループで役割を確認。

【役割】 ※原則全員で話し合います。地域の方は“隊員”

- ・隊長 1名 話し合いの進行と決断・指示
- ・副隊長 1名 ①隊長のサポート（判断・補助全般）
②読み上げられたカードを
取り出して地図上に準備する。
- ・隊員 数名 ①避難者をどの場所に避難させるか、イベント対応をどうするかを考え、グループに提案する。
- ・書記 1名 ①読み上げられたカードの把握
②イベント対応等の付箋紙や地図への記入・貼り付け

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク

話し合い②

※地域の方は、子どもの話し合いを見守ってください。

- ③模造紙の中央に、佐々木地区の全ての人が、少しでも安心して避難生活を過ごすために「大切なキーワード」 「そう思う理由」を書き出す。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

★これからの目標設定★

地域を支える“中学生”として、

これから“私”ができるようになりたいことは？
そう考えた理由は？

NPO法人
ふるさと未来創造堂

出来ることから積み重ね。

相談
雑談



相談
雑談

顔の見える関係性をつくる。

中学生の可能性は“無限大”
地域にとって、“大切な存在”
勇気ある一歩が、“地域を救う”

NPO法人
ふるさと未来創造堂